

令和6年度 事業方針

新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類へ移行されましたが、昨年度も施設内でクラスターが発生する等、罹患すると重症化しやすい高齢のご利用者が生活しておられる高齢者施設を取り巻く環境に変化はなく、これまで以上に防御と日常生活の共存が課題となっています。引き続き鈴蘭台荘でも3密を防ぎ、ご利用者及び職員の体調管理や、消毒・換気等の感染防止対策に努めていきます。市内及び近隣の感染状況により、面会や外出も制限される中ですが、外部講師によるクラブ活動の再開も徐々に検討していきます。コロナに対する備えを行いつつ、ご利用者に少しでも楽しみを見出してもらえるよう、職員一丸となって取り組んでいきます。

また、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻等により社会経済情勢も厳しさを増しており、光熱費をはじめとする様々な物品が値上がりしています。社会福祉施設、とりわけ養護老人ホームを取り巻く環境も変化しています。時代に沿った法人及び施設運営ができるよう、情報収集等を行い、引き続き取り組んでいきます。

出張面接を行う等、入所に向けて積極的に取り組んでいますが、新規入所者が減少しています。体調の変化等により退所者は一定数あるため、大変厳しい経営状況にあります。令和6年1月から導入した契約入所についても、近隣のあんしんすこやかセンター等を訪問してPRする等、ご利用者の確保に向けて引き続き取り組みます。ご利用者の健康維持と各方面への働きかけを強化していきます。当荘に入所された方々にここへ来て良かったと思っただけけるよう、設備の充実と、様々な職種が連携し、ご利用者の変化への早めの気づきとその対応を行っていきます。全職員が笑顔を忘れず、ぬくもりのあるホームでありたいと願っており、ご利用者の人権を尊重し、法令遵守・虐待防止を心がけます。

今年初めの能登半島地震等、大規模災害が増えています。台風に限らず線状降水帯による豪雨も全国各地で毎年のように起こっています。そのため、これまで以上に災害対策も求められています。昨年度補助金申請が認められたものの、納期の関係で導入できなかった非常用電源についても引き続き検討も行います。

また、長年職員の平均勤続年数の長さ・定着率の良さを誇りとしてきましたが、それに伴って、職員の平均年齢が高くなっています。経営状況が厳しい中ですが、昨年度支援員を1名採用しました。今後を見据えて職員採用についても引き続き検討していきます。

別館は立地条件から現状での耐震補強工事は難しいため、コロナ禍でもあり、ご利用者が減少する中で進捗しておりませんが、中期計画として建替え工事を

含めて今後の運営を検討していきます。

ここ数年財政的にも厳しい状況が予想されますが、より良いサービスの提供と、働きやすい職場をめざして検討を重ね、最善を尽くしていきます。

重点事項は次のとおりです。

1. 人権尊重と生活支援のスキルアップ

○法令遵守、権利擁護、拘束廃止、虐待防止等の職員研修を行い、職員に周知徹底していきます。ご利用者同士も良好な関係で共生されるよう、支援を行います。

○ADL低下の軽減を目標とし、残存機能を活かしながら自分らしく日常生活が送れるよう情報を共有し、また、ケアプランに沿って、その方にふさわしい援助、サービス提供を行います。

○ご利用者は大切な地域の一員であり、その地域で充実した生活が送れるよう、医療・行政・公的機関と連携していきます。

2. 地域貢献

社会福祉法人の地域貢献が求められる中、コロナ禍で引き続き活動が限定されることも予想されますが、以下のような取組みを中心に地域貢献に努めます。

○北区社会福祉法人連絡協議会

「ほっとかへんネット Kobe 北」の一員として、高齢・障害・児童・保育等の社会福祉法人の種別の垣根を超えて、地域社会への貢献をめざして協力していきます。

○すずらん会

鈴蘭台駅に近い社会福祉法人 8 施設で「すずらん会」を立ち上げており、コロナ禍で活動ができていませんが、引き続き地元の民児協等とも連携を図りながら、地域の福祉と社会貢献活動を模索・実行していきます。

○地域ケア会議

高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住居・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの小部地域での構築を目指す「地域ケア会議」の一員として地域の各機関と協力して取り組んでいきます。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指してスタートした「オレンジ 110 番」にも引き続き協力していきます。

○北区福祉教育プロジェクト

平成 29 年度に北区福祉教育プロジェクトが発足し、そのメンバーとして、希望される学校の中学 1 年生を対象に、高齢者についての説明と体験教育の場を持ち、高齢者への関わり方等を学んでもらう取組みを行ってきました。コロナ禍により活動を中断していましたが、神戸市内では昨年度から活動を再開しており、中学 1 年生に限らず、北区内の学校の要望に応じて高齢者について知っていただく機会を提供していきます。

○福祉避難所

一般の避難所での避難に配慮が必要な方のための避難所である「福祉避難所」として、神戸市及び兵庫県から指定されており、昨年度は福祉避難所開設訓練を行ないました。課題を検討し、二次避難所として有事に備えていきます。